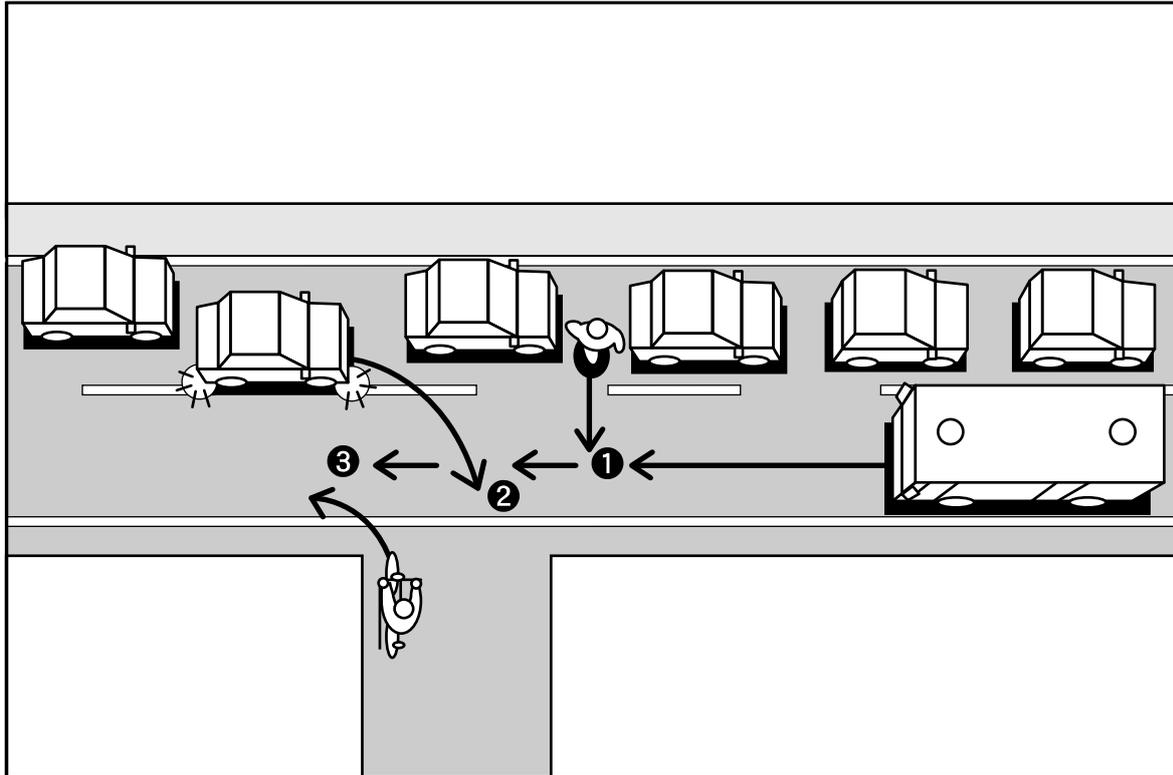


## 〔バス2〕 対向車線が渋滞している道路を走行



### 1．主な危険要因の例

- ① 渋滞車両の間に歩行者が見えるが、この歩行者が道路を横断してくると、はねる危険がある。
- ② 渋滞している車列のなかに右のウインカーを出している車があり、この車が脇道に入るために右折してくると、衝突する危険がある。
- ③ 脇道から自転車が出てくると、衝突する危険がある。

### 2．安全運転の例

渋滞車両の間から出てくる歩行者や自転車がないかどうか目配りして走行する。

渋滞車両の間に歩行者や自転車をみかけたときは、道路を横断してくるかもしれないと考えて歩行者の動きに十分注意し、スピードを落として走行する。

渋滞している対向車線にばかり注意を向けていると、左側の脇道等から出てくる自転車や車を見落とす危険があるので、自車線の前方の状況にも目を配る。

### 3．乗務員指導のポイント

渋滞車両がほとんど停止した状態のときには、渋滞車両の間から歩行者や自転車がでてくる危険性があるので、渋滞車線側の状況によく目を配るよう指導する。

対向車線は渋滞してても自車線は空いているような場合、つい油断が生じて、スピードを出し過ぎたり注意が散漫になることがあるので、決して油断せず緊張感を維持して走行するよう指導する。